

母親が語る人生における子育て —子育て期の母親は自らの人生に子育てをどう位置づけるか— ○徳田治子 無藤隆 (お茶の水女子大学家政学研究所) (お茶の水女子大学)

<目的>本研究では、生涯発達の視点で子育てを研究する試みとして、子育て中の母親が自らの人生を語るなかで発した「子育てについての語り」を通して、個々の母親が子育てや子育てをしている今をどのように意味・位置づけるかに注目し、人生段階としての子育て期について考える。

<方法>都内の社会教育会館で開講された講座に週1度3カ月間参与観察を行った後、11名の母親¹⁾に質問紙調査および半構造化面接を実施した(面接は許可を得、すべてテープに録音された)。
<分析>面接での語りを逐語文字化してデータとし、以下のような分析を行った。(1)面接前実施した質問紙調査とあわせて対象者のライフストーリーを再構成し、(2)以下の3つの枠組みを用いて、各枠組みごとに意味づけ、位置づけの仕方によって対象者を分類し(表1)、その語りの内容をまとめ(表2)、(3)各人の生活史や特徴からグループ成員間の特徴との関連を見た。「子育ての意味づけ」;対象者にとって子育てがどのようなものとして受け止められているかを表わす語り、「子育て期の位置づけ」;子育てが生活の中心

	(仮名)	意味づけ	時期位置づけ	空間位置づけ
A	和泉	●	●	●
	松宮	●	●	●
	鴨川	●	●	●
	石川	●	●	●
	友永	●	●	●
2	後藤	●	○	●
3	中村	●	■→○	●
B	石塚	●	■	○
C	1	長山	●	○
	2	丸井	○	○
		高本	○	○

<子育ての意味づけ>●明確な意味づけを行う(子育てについて、あるフレーズを用いて表現する)。
○明確な意味づけを行わず、子育てについて語る際、感情をあらわすことばで語る(例、楽しい)。
(注)両方見られる場合は、●に分類される。したがって、○は感情をあらわすことばのみで語る。
<子育て期の位置づけ>●意味づけ、時期的区切りともに明確。子育てをしている「今」の明確な区切りと時期的意味づけをおこなう。(例、今を「休憩」と時期的意味づけをし、「こんな時期もあってもいいかな」と語る)○意味づけは明確に行うが、「今」を強調する明確な時期的区切りは見られない(例、今を「休憩の時期」と語るが、「今」を区切るような語りは見られない。)●意味づけ、時期的区切りともに明確でない。(例、明確な時期的意味づけをおこなわず、今の位置を「ずっと続くのかな、はやく終わってほしい。」と語る)
<子育ての空間的位置づけ>●子育てをある世界に見立てて語ったり、何か、例えば、働くこととの対比で子育てを語る「子育ての空間的位置づけ」をする語りが見られる。○見られない

¹⁾本研究は、「子育て期」を「保育園、幼稚園などの保育施設に通わせておらず、また通わせるか否かの選択を経験しない、母親が子育てに「専念」している時期とし、結婚、あるいは出産により仕事を辞めている母親には、子どもが0~3歳の時期、育児休暇をとり、就業を続ける母親では、0~1歳の期間」と定義し、今回が初めての子育て期であることを選定基準として対象者の選択を行った。

にある今という時期をどのように受け止めているかを表わす語り、「子育ての空間的位置づけ」;子育てをひとつの空間や世界に見立てたり、子育てをなにか(例えば働くこと)と対比して表現する語り)

	子育ての意味づけ		子育て期の位置づけ		空間的位置づけ		人生
	意味	内容	意味	区切り	有無	内容	
A1	和泉	休憩・暇ががる	明確	明確	有る(N)	子育ては「楽しい」「楽な少ない」世帯/働くことば「社会とのつながり」	子育て以外へ 子育てそのもの
	松宮	休憩させてもらっている					
	鴨川	暇になる					
	石川	子どもから学ぶ					
友永	暇になる						
A2	後藤	親育ち	なし	「休憩」ではなく「勉強」	有る(P)	会社のほうが「楽しい」、時間も陶家	
A3	中村	成長のチャンス	なし	「休憩とは思えない」→「勉強」	有る(N)	「仕事の世界」にすんなり入れない	
B	石塚	大人になること	どうして	続く	ずっと続く気がする どうして私が	なし	
C1	長山	修行	明確	なし	前進	なし	
C2	丸井	楽しい	子育てを強調しない	なし	家庭に専念する時	なし	
	高本	感情 疲としての喜び	子育てを強調しない	なし	子育ての時/夫に守られている時間	なし	

<結果および考察>

(1) 子育ての意味づけや子育て期の位置づけは一樣ではなく、各々のライフコース(特にこれからについて)を反映したものであった(例えば、これからの自分の人生を子育て以外に想定する母親は、働くこととの対比で子育てを語ったり、自らの人生の場と考えるものとの関連で、子育てや子育てをしている今について、勉強、休憩などの意味づけを行っていた)。

(2) 各グループの母親の語りから人生という時間軸で「現在」を積極的に意味・位置づけることの重要性が指摘できる。例えば、A1の母親の場合、働くこととの対比で否定的に語られる「子育て」が、今を「ちょっとだけ」と区切り、「休憩」と意味付けることで肯定的な意味を与えられている。また、外からの「休憩/ちょっとのがまん」という意味づけが受け入れられなかったと語る母親(A3)や「どうして私が」と意味を模索する母親(B)の姿は、意味づけや位置づけが、その内容だけでなく、意味づける、位置づけるという行為として、より積極的な意味を持ち得る可能性を示唆している。